

■コメント

1. インフルエンザ

定点医療機関からの報告数は、79人(定点当たり2.14人)と前週とほぼ同程度でしたが、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等が1件報告されています。

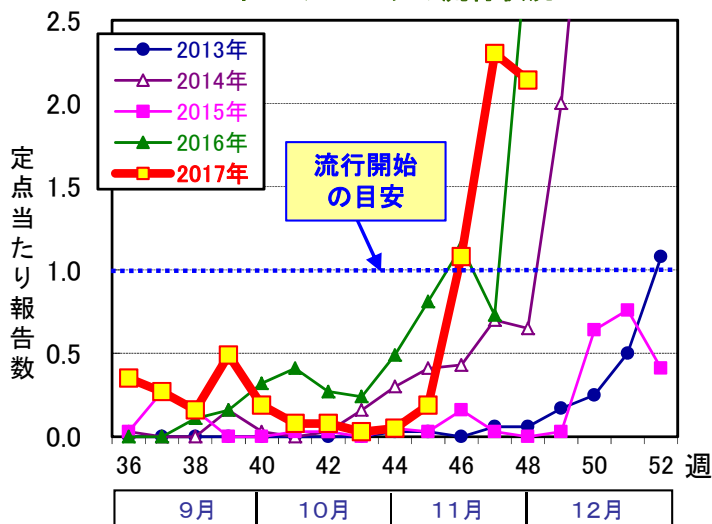
インフルエンザは、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が比較的急速に現れるのが特徴です。あわせて普通のかぜと同じように、のどの痛み、鼻汁、咳等の症状も見られます。

ワクチン接種や手洗い、咳エチケットの励行などで感染を予防し、症状などからインフルエンザが疑われる場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

2. つつが虫病

第46週に1件、第47週に2件、第48週に6件と報告が続いており注意が必要です。(次頁参照)

インフルエンザの流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注)	発生記号
小児科	インフルエンザ	79	2.14	0.76	⇒	小児科	流行性耳下腺炎	1	0.04	0.78	
	咽頭結膜熱	17	0.71	0.58	⇒	眼科	RSウイルス感染症	17	0.71	1.00	↑
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	91	3.79	2.32	⇒		急性出血性結膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	158	6.58	11.87	⇒		流行性角結膜炎	5	0.63	0.83	
	水痘	10	0.42	1.27	⇒		細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	23	0.96	0.52	⇒		無菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	伝染性紅斑	1	0.04	0.28		基幹	マイコプラズマ肺炎	-	-	0.12	
	突発性発しん	10	0.42	0.39			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	百日咳	-	-	0.05			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	1	0.04	0.09							

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	⇒	⇐	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	⇐	⇒	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	⇐	⇒	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	5	129	女性(10歳代)・1人、女性(40歳代)・1人、男性(80歳代)・2人、男性(90歳代)・1人
4	つつが虫病	6	10	男性(50歳代)・1人、女性(50歳代)・1人、男性(60歳代)・1人、女性(60歳代)・2人、女性(80歳代)・市外・1人
5	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	4	男性(60歳代)

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

		インフル エンザ	咽頭結 膜熱	A群溶血性 レンサ 球菌咽頭 炎	感染性胃腸 炎	水痘	手足口病	伝染性紅 斑	突発性発し ん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性耳下 腺炎	RSウイル ス感 染症	急性出血性結 膜炎	流行性角結 膜炎	細菌性髄 膜炎	無菌性髄 膜炎	マイコプラ ズマ肺 炎	クラミジ ア肺炎	(ロタウ イルス)
報告数	広島市	第44週	2	15	45	85	13	42	1	6	-	8	2	16	-	3	-	-	-	-
		第45週	7	9	62	82	10	40	2	8	-	4	2	16	-	7	-	2	-	-
		第46週	40	14	66	106	8	32	-	8	1	-	7	15	-	2	-	1	-	-
		第47週	85	13	78	147	15	14	1	5	1	-	3	5	-	5	-	1	-	-
		第48週	79	17	91	158	10	23	1	10	-	1	1	17	-	5	-	-	-	-
定点 当たり	広島市	第44週	0.05	0.63	1.88	3.54	0.54	1.75	0.04	0.25	-	0.33	0.08	0.67	-	0.38	-	-	-	-
		第45週	0.19	0.38	2.58	3.42	0.42	1.67	0.08	0.33	-	0.17	0.08	0.67	-	0.88	-	0.29	-	-
		第46週	1.08	0.58	2.75	4.42	0.33	1.33	-	0.33	0.04	-	0.29	0.63	-	0.25	-	0.14	-	-
		第47週	2.30	0.54	3.25	6.13	0.63	0.58	0.04	0.21	0.04	-	0.13	0.21	-	0.63	-	-	0.14	-
		第48週	2.14	0.71	3.79	6.58	0.42	0.96	0.04	0.42	-	0.04	0.04	0.71	-	0.63	-	-	-	-
全国		第46週	0.77	0.67	2.50	4.89	0.56	1.28	0.06	0.43	0.01	0.23	0.31	0.76	0.02	0.83	0.02	0.05	0.54	0.01
		第47週	1.47	0.69	2.44	5.48	0.47	1.23	0.08	0.42	0.01	0.18	0.27	0.71	-	0.71	0.03	0.03	0.34	0.01

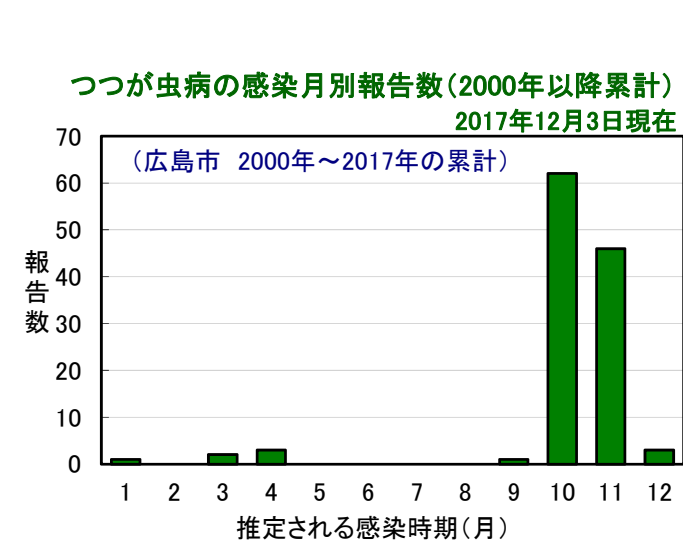
■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
その他の呼吸器疾患	上気道炎 気管支炎 細気管支炎	0	男	2017/10/05	鼻汁	RSウイルス
その他の呼吸器疾患	気管支炎	13	男	2017/10/16	咽頭拭い液	ライノウイルス
その他の呼吸器疾患	気管支炎 細気管支炎	0	男	2017/10/23	鼻汁	RSウイルス エンテロウイルス68型
その他の呼吸器疾患	発熱(38.1) 気管支炎	0	男	2017/10/24	咽頭拭い液	ライノウイルス
その他の疾患	発熱(39.2)	0	男	2017/10/26	糞便	ハレコウイルス1型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】ダニ類が媒介する感染症に注意しましょう
- つつが虫病／日本紅斑熱／重症熱性血小板減少症候群(SFTS) -



つつが虫病は、つつが虫病リケッチアを保有するツツガムシ(ダニの一種)に吸着されることにより感染する感染症で、5～14日程度の潜伏期間を経て発症します。症状の主な特徴は発熱・発しんで、ダニの刺し口が見られることもあります。

左のグラフは、2000年～2017年のつつが虫病の届出153件のうち、感染時期の記載のあった118件について感染月別に集計したものです。約92%が10月から11月の間に感染しており、この時期は特に注意する必要があります。

このほかに、日本紅斑熱やSFTSも、ダニ類が媒介する感染症です。

これらの感染症を予防するには、ダニ類の吸着を防ぐことが最も重要です。山や草むらに入るときは、長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、皮膚の露出を少なくしましょう。また屋外活動後は入浴し、ダニ類が付着していないか確認しましょう。

ダニ類が吸着していた場合は、皮膚科を受診し、除去してもらってください。また、ダニ類に咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が出た場合には医療機関を受診してください。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。
なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。
URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】
広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp